



# Book Talk

編集・発行 海南高校図書館  
第24号 2015.07.07

## 本がいちばん身近な存在

私にとって本がいちばん身近な存在だったのは何歳の頃だろうか？

この「Book Talk」を書くことが決まってから、振り返ってみると、本が大好きだった小学生の頃の自分がよみがえってきた。その頃の私の楽しみは2つ。1つは、図書館通い。ほぼ毎日、図書館へ通いづめていた。確か一日3冊の貸し出しで、いまは、バーコードをかざすだけでよい時代だが、その頃は貸し出しカードに図書館の先生が借りる本の名前を書いてくれた。私は、借りた本の名前が次々と書かれ、本の名前でいっぱいになった紙が幾重にも重なっていき様子がたまらなく好きで、1、2日で3冊読み終えてはまた借りるを繰り返していた。そしてもう1つは、母親と買い物に出かけたとき、必ず本屋に寄って買ってもらったハードブック。本屋にあるたくさんの本の中から自分のお気に入りを入りを1冊だけ選ぶ。それを早く読みたいという衝動にかられながら、家に帰って、わくわくしながらページを開いたことを思い出す。その1ページ1ページを読みめぐりながら、自分だけの想像の世界を作り上げることが楽しかった。

## 「グリーンマイル」という本と出合って

さて、その頃の私がどんな本を読んでいたかということ、図書館で借りる本は、伝記（キュリー夫人、ファール、聖徳太子など）か昔話（日本、イソップ、アンデルセンなど）がほとんど。本屋で買うお気に入りは、1ページ目を読んだファーストインスピレーションで決めていたけど、人の死に直面するような戦争ものや推理ものは苦手で買うのを避けてきた。



そんな私が唯一買って読んだ本がある。それは「グリーンマイル」という本。内容は死刑囚の話で、主人公はアメリカの刑務所で死刑囚監房の看守を勤めるポール・エッジコム。ある日ポールのもとに、双子の少女を強姦殺害した容疑で、ジョン・コーフィという大柄な男が送られてくる。死刑囚のコーフィは、その風貌に似合わない繊細で純粋な心を持っていて、コーフィが手で触れると、悪いものを吸い出したり、治したりする不思議な力があり、コーフィはその能力を使い、ポールが長年わずらっていた尿路感染症を治してしまう。さらにはミスター・シングルズというねずみの命も救い、これを見た看守たちは、コーフィの不思議な力と、純粋さに気づき、コーフィが電気椅子に送られてしまう運命にあることに悩み始める。そして、双子の少女殺害事件の真相が明らかになっていく……。

ではなぜ、避けてきたジャンルの本を読んだのか。そのきっかけは、この本が映画化されたとき、ストーリーにすごく興味を持ったからだ。そして、この映画を見たいと思った。でも、死刑囚の話だから映像で見るとは怖すぎて見れない。だったら、本で読もう、活字ならさほど怖



本が大好きだった小学生の頃の自分から  
・  
・  
・  
・  
いまの私へ  
・  
・  
・

くないはずと思って買って読み始めた。しかし、これがのちに読まなければよかったという後悔の念にさいなまれることになる。

## 後悔先に立たず・・・

単行本で7冊分はあったらどうか。最初は、ストーリーの良さに私はのめりこむように本を読み進めた。しかし、読み進めるにつれてだんだん後悔の念が押し寄せてきたのだった。本を読むことと映画を見ることの違いは、本は読んでいく間にそのストーリーを自分なりに想像しながら読み進めていく。つまり、読みながら頭の中で私の想像が映画化されていくのだ。だから、この本を読み進めていくうちに、映像で見るとは怖いと思っていた部分（死刑執行の様子とか）がどんどんイメージとして膨らんで、自分が読んで想像した怖い映像が頭の中で否応なしに流れ続けるということになってしまったのだ。怖い映像を見たくなくて、本を読み始めたのに、活字による細かい描写が勝手に私に怖い映像を想像させ、頭からその映像が離れないというはめに……。結局、映画を見るよりももっと怖い目をしなければならなくなってしまった。せっかくの本の楽しさが裏目に出てしまった苦い思い出である。

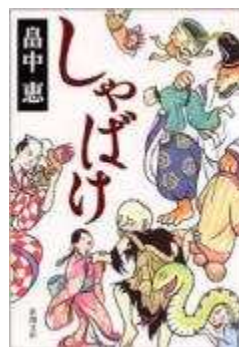
## 本と映画

以前、友人と映画「ハリーポッター」を見に行ったときのこと、見終わったとき友人が言った言葉が、「本を読んだら映画は見ない方がいい。本を読んだ自分のイメージ通りじゃないことが多いから、映画を見るとがっかりする。」だった。そのときは、あのふっ厚いハリーポッターの本を読む気になれなくて映画を見た私だったので、「ふ～ん、そんなもんかなあ。」と思っただけだった。その後、おもしろい本と出合って、こんなにおもしろいものだから、映画で見るともっとおもしろいに違いないと意気揚々と映画を見に行った。その映画自体はおもしろかったのだが、そのときやっと友人が言った言葉の意味がわかった。がっかりしたし、ただただ自分の描いた本の世界とこんなに違うものかと驚いた。映画を見ることが悪いわけではない。映画は、音楽や映像でその本が伝えたかったことをよりの確に表現することができるし、本を読むより時間が短縮できて、誰でも気軽に楽しめるよさがある。だけど、それ以上に、本には読んだ人だけの世界がある。その世界は、映像では表現できない。それは、人によってその世界は違うし、自由だからだ。



## わくわくしていたあの頃の自分に・・・

本が大好きだった小学校の頃の自分からたくさんの月日が流れて・・・いまの私へ・・・「本を読んでいますか？」



いまの私は、年に1冊読めばいい方で、図書館へ通うことも本屋さんへ本を買いに行くこともほとんどない。でも、この「Book Talk」を書くことになって、改めて本の良さ、楽しさを思い出した。小学生の頃のわくわくしていた自分と一緒に・・・。だからこれを機会にまずは1冊、手にとって読んでみようと思う。あの頃の自分に戻って。

(数学科 和田 操)

